

委員会先進地視察報告書総括表

1 視察日	令和 8年 1月 19日 ~ 1月 20日	
2 視察地・項目	① 広島 県 呉 市 議会だよりの編集について	
	② 兵庫 県 高砂 市 議会報告会について	
	③ 県 市・町	
	④ 県 市・町	
3 参加者	1. 中崎 秀紀 委員長	7. 水上 享 委員
	2. 入江 詩子 副委員長	8. 田中 博文 委員
	3. 高見 龍也 委員	9. 朝長 英美 委員
	4. 南波 伸孝 委員	10. 益田 莉穂 書記
	5. 光山 千絵 委員	11.
	6. 永山 真美 委員	12.
4 視察経費	562,350 円 ※(10)人分	

広報委員会先進地視察報告書

報告者 光山千絵

1 視察日	令和 8年 1月 19日	
2 視察地	広島県 呉市	
3 参加者	広報委員会	
	1. 中崎 秀紀 委員長	6. 水上 享 委員
	2. 入江 詩子 副委員長	7. 田中 博文 委員
	3. 高見 龍也 委員	8. 朝長 英美 委員
	4. 南波 伸孝 委員	9. 光山 千絵 委員
	5. 永山 真美 委員	10. 益田 莉穂 書記
4. 視察項目	議会だよりの編集について	
5 視察先選定理由・目的	中核市議長会議会報コンクールにて優秀賞・最優秀賞の実績があったため	
6 視察内容	呉市 明治期に海軍の呉鎮守府が置かれ、当時世界最大で催促を誇った戦艦長門を建造するなど東洋一の軍港として知られた。現在も海上自衛隊関連施設が所在。造船、鉄鋼、機械金属、パルプ業等を中心とする工業都市。人口約 20 万人、市域約 352 km ² 。議員定数 32 名。 説明：呉市議会広報委員長 佐伯 航一郎 議員 ・ 議会事務局 蔦村職員	
	<u>広報委員会の概要</u> ○委員数 6名 各会派及び諸派から選出された議員で構成 ○協議事項 ・ 呉市議会だよりの編集および発行に関する事 ・ 議会広報全般に関する事 <u>市議会だよりの概要</u> ○創刊 : 平成 29 年 5 月号 ○年間発行回数 : 5・8・11・2月(4回・各月 10 日) ○発行部数 : 各 87,000 部、年間 348,000 部 <u>広報委員会の予算</u> 令和 7 年度予算 ・ 委託料 955 万円 (紙質を変えたことで約 70 万円削減) など <u>令和 4 年度のリニューアル</u> 議会だよりをより市民に見てもらうために検討を開始。 令和 3 年 10 月には外部講師を呼び研修会実施 ⇒縦書きから横書きとし、文字数を減らし余白を確保。写真やイラストを多用する ⇒特集と議案審議の掲載を追加 ⇒一般質問(個人質問)の掲載内容充実 <u>質疑応答</u> 議案審議の選定方法、賛否が分かれた議案、事務局の負担、デジタル化への対応 など	
7 委員会所見	改善前の縦書きで文字が多い紙面は、まさに大村市議会の議会だよりと同じだと感じた。議員目線ではなく、市民目線で伝わる紙面づくりを徹底されていたことが参考となった。	

委員会先進地視察報告書

報告者 南波 伸孝

1 視察日	令和 8 年 1 月 20 日	
2 視察地	兵庫県 高砂市	
3 参加者	広報委員会	
	1. 中崎 秀紀 委員長	7. 田中 博文 委員
	2. 入江 詩子 副委員長	8. 朝長 英美 委員
	3. 高見 龍也 委員	9. 南波 伸孝 委員
	4. 光山 千絵 委員	10. 益田 莉穂 書記
	5. 永山 真美 委員	11.
	6. 水上 享 委員	12.
4 視察項目	高砂市議会の「議会報告会」及び「高校生との意見交換会」の取り組みについて	
5 視察先選定理由・目的	議会報告会を基本条例に位置づけ、さらに高校生との意見交換会を通じて若年層との対話を積み重ねている点などを学ぶ	
6 視察内容	<p>高砂市議会では、全国的な議会改革の流れを受け、平成 24 年度より「議会報告会（市民向け）」を開始した。その後、平成 26 年 3 月に議会基本条例を制定し、議会報告会を制度化。平成 28 年には開催要項を定め、年 1 回以上の開催を規定している。</p> <p>また、若年層の政治参加意識向上を目的として、平成 30 年度より「高校生との意見交換会」を開始。コロナ禍により一時中断したが、現在は再開し、市内高校 4 校を順次訪問または来庁形式で実施している。</p> <p>背景には以下の課題認識がある。</p> <ul style="list-style-type: none">・開かれた議会運営の推進・市民への説明責任の強化・若年層との接点の不足・市政課題に対する市民理解の深化 <p>取り組み内容</p> <p>(1) 市民向け議会報告会</p> <ul style="list-style-type: none">・年 1 回以上開催（主に 1～2 月）会場：庁舎内（対面）＋オンライン配信（ハイブリッド形式）担当：議会運営委員会が全体統括報告主体：常任委員会または特別委員会 <ul style="list-style-type: none">・テーマ設定市政の重要課題を議会運営委員会で整理必要に応じてテーマまで指定場合によっては各委員会にテーマ選定を委任	

・ 内容例

市民病院の経営問題（特別委員会）、公共施設マネジメント、水道料金改定、地域交流センターへの移行、防災・浸水対策

・ 形式

委員長が報告→その後、グループ形式で意見交換（各班に進行役・記録係を配置）→記録はホームページで公開

・ デジタル活用

議場配信システム活用、完全オンライン開催実績あり（コロナ禍）
電子申請によるアンケート実施、SNS での周知

（２）高校生との意見交換会

・ 実施方法

市内高校 4 校を順次実施
開催場所は学校側が選択（出向く／来庁）
実施形式も学校と協議のうえ決定

・ 主な形式

グループディスカッション
生徒による発表＋議員との意見交換
議会制度説明＋討議

・ テーマ例

若者の居場所、少子高齢化・人口減少、駅前整備、学校施設整備
成人年齢引き下げと政治参加、防災・投票率向上

・ 参加対象

主に生徒会役員、公民授業受講生、学校の裁量による選抜

特徴

① 議員主体の運営

資料（パワーポイント）作成は原則議員が実施
動画編集・字幕作成も議員主導で実施した実績あり
事務局依存度が低い

② 市政課題に直結したテーマ設定

実際の政策課題（病院経営・料金改定等）を扱う
市民とともに学ぶ「セミナー形式」も導入

③ グループ形式重視

一方通行型説明ではなく、対話型運営（深い意見交換を重視）

④ 学校への裁量尊重
実施形式を学校に委ねる柔軟性、教育現場との信頼関係を重視

⑤ 配信による波及効果
議会内部の意識向上、行儀・発言姿勢の改善

課題

(1) 市民向け報告会

参加者が高齢層中心になりがち、現役世代の参加が少ない
行政説明との差別化が課題、内容の難易度調整

(2) 高校生意見交換会

年1校実施では全生徒が経験できない(4年間で1巡のため、未経験者が生じる)、さらなる年齢層(中学生・小学生)への拡大

(3) 効果測定の難しさ

直接的な政策反映や数値的成果は見えにくい
参加者数は伸び悩み傾向

質疑応答

■ 特別委員会の構成

原則1委員会体制(議員数減少のため)

■ 行政の説明会との違い

市長部局もタウンミーティング実施
議会は政策審査側としての視点で説明

■ 地域差への対応

市域はコンパクトだが地域特性は存在
会場集中型でもテーマ型議論が中心

■ 配信体制

議場配信システムを活用
必要に応じ事務局が操作補助

■ 効果の実感

直接的数値効果は限定的
ただし議会の意識・姿勢改善には効果あり

7 委員会所見	<p>高砂市議会は、制度化された議会報告会の継続実施と若年層との対話推進、そして議員主体の運営に特徴があります。市政課題を市民と共有し対話を重ねる姿勢は、議会の広聴機能強化の有効なモデルといえます。本市にとっても、広聴の充実と若年層との接点強化に向けて大いに参考となる視察でありました。</p>
---------	---